



会 報

やまぐち

No.66

平成9年

8月発行



海峡メッセ下関

アジアを中心に世界と西日本を結び人々が集い、語らい、交易し、催しに参加する賑わいの拠点……

「海峡メッセ下関」は、展示見本市会場、イベントホール、国際会議場、企業オフィス、パスポートセンター等に加え、シンボルタワーを併設した総合的、多目的な複合施設です。

国際貿易ビル	延床面積	約21,600㎡（地下1階 地上10階）
アリーナ	延床面積	約6,500㎡（地上5階）
海峡ゆめタワー	延床面積	約2,200㎡（高さ 153m）

山口県土地家屋調査士会

目 次

第50回定時総会開催	1
会長就任あいさつ	5
副会長に就任して	7
日調連定時総会傍聴報告	9
山口県土地家屋調査士会役員名簿	11
各部長就任挨拶	12
第1回理事会報告	14
建設委員会報告	16
会館建設委員会役割分担表	17
ロゴマーク図案	20
【投 稿】	
毛利秀包の生涯	22
【クラブだより】	
釣りグラフ 貧戦記	24
【事務局だより】	
会員異動状況・会務報告	27

第50回定時総会開催

平成9年度の定時総会が5月28日（水曜日）午前10時30分より吉敷郡小郡町の「山口グランドホテル」で開催され、多くの来賓の方々の臨席を賜り来賓祝辞のおと加藤光明山口地方法務局長から3名、水上要蔵日本土地家屋調査士会連合会会長から2名、乗川良介山口県土地家屋調査士会会長から13名の方が表彰をお受けになりました。

今総会は役員改選の年でありまして、会長・副会長2名は再選され、高田吉雄副会長（下関支部）の後に三好一敏副会長（萩支部）が新しく選任されました。会長をはじめ本部役員には「21世紀」を迎えるにあたり、大きな期待をし二年間の任期の全うをお願い致します。









会長就任あいさつ

山口県土地家屋調査士会

会長 乗川 良介



平成9年5月28日開催の、山口県土地家屋調査士会、第50回定時総会に、山口地方法務局、加藤局長を始め、御来賓多数の御臨席のもと、又会員多数の出席を見、盛会裡に総会が終了した事を、先もってお礼申し上げます。

特に日本土地家屋調査士会連合会から、全国50会の総会が集中し、大変御多忙のところ、水上会長には目から御臨席をいただき、最近の情報等を交えて挨拶を頂戴し有難く感謝申し上げます。

この定時総会において、再度会長に選任され、行政改革、規制緩和の最中であって、責務の重大さを肌で感じているところであります。

その上6月16日～17日開催の日本土地家屋調査士会連合会第53回定時総会において、同連合会の理事に選任され、同日の理事会で総務部に配属され、更なる責任と重圧を感じているところであります。私の持てる力を出し切って、一生懸命努力致しますので、信田の御支援、御協力を、お願い申し上げます。

当山口会は、本年の改選に当り、幸い副会長に、小嶋慎一郎、瀬口潤二、両名のベテラン副会長が再選され、過去支部長、本部理事等多くの役職を経験された三好一敏先生が新たに副会長に就任して戴き、担当部長も4部長の内、3部長が新たに誕生し、継続の中にも、新生活動体制が充実し、盤石の役員構成となり、心強く思っているところであり、向う2年間を総会で決議いただいた事業計画に基づき、会務の執行をして参る所存であります。

さて今年の重点目標は総会の会長挨拶の中で申し上げました様に、

1. 調査士会館の建設
2. 業務処理の充実の為の研修
3. 異業種交流と制度のPR
4. 連合会と連動して、事務所経営形態の研究

以上4項目を、本年度事業計画と合せ取組んで戴く様、各担当部にお問い合わせをしたと

ころであります。

西歴2000年には、制度制定50周年となり、周年事業の計画にも、取組まなければなりません。

登記行政部門の外庁化問題、補助者問題、事務所形態の問題、地図対策等々、制度に係る問題が山積している今日、連合会には連合会の役割、単位会には単位会の役割があると思います。一つの目的に向って、各々が分担し、対処しなければなりません。

各位の帰属意識を再認識して戴き、連帯し、制度充実の効を実現し、新たなる制度、組織への対応を期待しています。

幸い、先に報告致しました様に、本年から連合会の理事を拝命していますので、中央での動きが早く知ることが出来ます。

変わり行くであろう制度に係るニュースは速報で伝達いたし、必要に応じ、会務運営の一助となれば幸いと存じています。

再度役員共々任期一杯会務に専念いたしますので、御協力をお願いいたします。

最後になりましたが、会員各位の御健勝と御多幸、御活躍を祈念し、私の会長就任のあいさつと致します。



再度副会長に就任して

広報担当副会長 小 嶋 慎 一 郎

下りる下りると言いながらとうとう3期目の就任のご挨拶となりました。

会の機能の新陳代謝という面から考えると、私のような無能なものがいつまでも要職を汚すことで良いのか？法務局の外庁化や補助者人数の撤廃、調査士事務所の法人化等、我々を取り巻く環境変化の激変も予想されるこの重要な時期にむしろ、若い、新しいこれから会を背負っていく有能な会員が機動性を発揮して新しい時代を造っていくことも大切なことであろうと思っています。

さて、すでに、会報でご承知の方も多いとは思いますが、中国ブロック協議会では統一のロゴマークを作成し各会が使用する封筒や文書、その他中国ブロック管内調査士が使用する物品のうち、統一して使用できる一定のものに統一ロゴマークを表示することについて、広報担当者会議で決定し目下、各会において懸賞募集をしております。

これは、中国ブロック協議会において、当会の高杉部長が調査士の知名度向上のため発案し、これが具体化されつつあるものであります。

調査士法第1条に「この法律は、土地家屋調査士の制度を定め、その業務の適正を図ることにより不動産の表示に関する登記手続の円滑な実施に資し、もって不動産に係る国民の権利の明確化に寄与することを目的とする」と掲げてあります。

すでに50年が経過しているのにと考えるのか、長くても浅い歴史故と考えるのか、いずれにしてもこのような、公共性の高い重大な使命を抱えながら、土地家屋調査士制度そのものが一般に浸透しておらずこれが我々の悩みの一つになっていることは否めない事実であります。

この任期中は、この事を踏まえて、会員の皆様の不断のご協力も期待しつつ調査士の知名度の向上に向けて各種企画を実現し、一人でも多くの方に調査士制度の周知を図るべく努力してまいり所存であります。どうぞよろしく申し上げます。

再就任にあたって

副会長 瀬 口 潤 二

過日の定時総会で再度、副会長を引き受けることになりました。今回は、筆頭副会長が、健康を理由に副会長を勇退されたので、一抹の不安がつきまといまいます。残された、小嶋副会長と新任の三好副会長と3人で乗川会長の補佐役を努めたいと思います。今回は、総務と財務を担当する事が決まっています。21世紀に向かって会館建設が展開され、新しい規則、法の整備に連動した、会の運営のルールを一から見直したいと考えています。

今回の各地区から選出された理事の顔ぶれをみますと、どの方が部長になってもおかしくないメンバーです。12人の内から4つの部の長を割り当てるのですから、執行部はうれしい反面、相当悩みました。

あらたな部の構成をみると、かつてないほどの強力な執行部になっていると感じます。副会長職3期目で、そろそろ、惰性が出そうです。心して会務を全うしたいと思っていますので、会員皆さんの熱いご協力をお願いします。

副会長就任挨拶

三 好 一 敏

第50回の定時総会において、高田副会長の後継として選出され、私にとって又萩支部にとって大変名誉なことであると思っておりますが、日時が経つに従い、その責任の重大さに、肩に重くのしかかる重圧を感じております。

今年は特に会館建設に当り、会員が一丸となって取り組まなければならず、執行部の一員として大変な役目を引き受けたものだと、ことある毎に後悔しきりです。

私自身若い頃から、新しいものへのチャレンジ精神が旺盛で、歳をとった今は、その旺盛さも一時ほどではなくなったものの、好奇心の強さは相変わらずで、何かの機会に“私らしさ”が会にとって有用なこともあろうとたかをくくりにしました。

三人の副会長の中では最も仕事をしない副会長になるかもしれませんが、会員の皆様方の叱咤激励、特に暖かい励ましが発奮材料となります。長い目で見守って下さい。

日調連定時総会傍聴報告

副会長 瀬口 潤 二

第53回、連合会の定時総会が東京都で開催されました。

行政改革、規制緩和、財政改革が、真剣に論議され、21世紀にむけて世の中は大きく舵を切ろうとしています。新しい秩序、新しいルールの構築が、組織の内外から語られています。調査士の業務の本質は何であるのか？その本質の実現のため、連合会は何をしなければならぬのか、そして、そのために単位会は、どのような準備をしなくてはならないか？調査士個人は、いま何をすべきなのかということについて論議されていました。

連合会の出席者は、単位会に帰れば、すべてが執行部の一員ですので、予算金額等の小さな点については、執行部の報告をあっさり了承するかたちで進行していましたが、事業方針や、大綱に対しては、かなり手厳しい要望や、提案が出ていました。こういう世の中が大きく舵を切る時代に於いての連合会の役割の重要性はいうまでもありません。

今年、役員改選期で、会長、副会長は選挙で選出されました。水上現会長が再選されたこと及び、中国ブロックから推薦した中友洋介広島会会長が副会長に選任されました。

広島会から副会長が選出されたことは、我が山口会にとって非常に喜ばしいことです。

中国ブロックの指導者が連合会の推進役になることを意味します。理事に選任された山口会乗川会長もまたこの援護者としての活躍を期待されています。中国ブロックを構成するわれわれが論議する内容が、中友副会長や乗川理事を介して全国に影響力を及ぼします。

中国ブロックの調査士一人一人の日常の業務姿勢が、全国に反映するといえば、オーバーでしょうか？連合会と直結して語られるチャンスが来たという感じがします。連合会と山口会の距離が非常に近くなったように感じています。



この大会は、国際経営学会の創立20周年を記念して開催された。会場は、豪華な装飾が施された大ホールで、多くの来賓が参加した。開会式では、学会長が挨拶を述べ、各界の代表者から祝辞が寄せられた。本会では、最新の経営学に関する論文の発表と討論が行われ、活発な議論が交わされた。また、懇親会やセミナーも開催され、参加者同士の交流が盛んだった。

この大会は、国際経営学会の創立20周年を記念して開催された。会場は、豪華な装飾が施された大ホールで、多くの来賓が参加した。開会式では、学会長が挨拶を述べ、各界の代表者から祝辞が寄せられた。本会では、最新の経営学に関する論文の発表と討論が行われ、活発な議論が交わされた。また、懇親会やセミナーも開催され、参加者同士の交流が盛んだった。



この大会は、国際経営学会の創立20周年を記念して開催された。会場は、豪華な装飾が施された大ホールで、多くの来賓が参加した。開会式では、学会長が挨拶を述べ、各界の代表者から祝辞が寄せられた。本会では、最新の経営学に関する論文の発表と討論が行われ、活発な議論が交わされた。また、懇親会やセミナーも開催され、参加者同士の交流が盛んだった。



山口県土地家屋調査士会役員名簿

(任 期 平成9年5月～11年5月)

平成9年6月25日現在

役 職		氏 名	支 部	役 職	氏 名	支 部	
会 長		乗 川 良 介	徳山	綱紀委員長	井 尻 富 士 夫	岩国	
副 担 当 長 部 理 事	広 報	小 嶋 慎 一 郎	山口	綱紀委員会	綱紀副委員長	野 村 幸 人	山口
	総務・財務 (兼研究室長)	瀬 口 潤 二	宇部		綱紀委員	細 野 毅	徳山
	業 務	三 好 一 敏	萩		"	徳 本 富 士 男	防府
	総務部 部 長	渡 辺 剛 通	徳山		"	長 田 幸 三	萩
	副 部 長	八 木 哲 郎	山口		"	高 野 一 夫	宇部
	財務部 部 長	楠 木 俊 夫	下関		"	磯 部 豊 盈	下関
	副 部 長	増 満 増 郎	山口	支 部 長	支部長会議長	西 本 聡 士	徳山
	部 長	米 原 茂 樹	下関		" 副議長	青 木 正 治	山口
	副 部 長	山 根 勇	防府		支 部 長	浦 井 義 明	岩国
	部 員	大 森 正 秀	岩国		"	大 田 雄 二 郎	防府
部 員	若 林 功	宇部	"		河 内 浩 巳	萩	
部 長	高 杉 千 河 生	宇部	"		水 津 久 太 郎	宇部	
広 報 部	副 部 長	松 田 邦 利	岩国	"	溝 口 保 二	下関	
	部 員	坂 本 敬 子	徳山	相 談 役	竹 内 重 信	萩	
	部 員	上 村 栄	萩				
監 事	代表監事	木 下 勝	防府				
	監 事	渋 瀬 清 治	岩国				
	監 事	平 山 正 昭	宇部				
名 誉 会 長	新 本 清 人	岩国					
相 談 役	高 田 吉 雄	下関					

各部長就任挨拶



総務部長 渡辺 剛 通

本部理事が3期目ということで（？）、前任の八木総務部長より強く要請を受け、6月の理事会において、総務部長という大役を引受けることとなりました。

私の責務は、総務部における平成9年度事業を著実に遂行すると共に、会員の会への帰属意識の高揚、会務の円滑な運営の手助けをすることと考えております。

そこで、会務に精通されておられる栗川会長、瀬口副会長、八木理事の指導を仰ぎ、会員の皆様方の御協力を頂きながら精一杯頑張りたいと思います。

本年度は、会館建設のため、JRさんとの契約を初め、設計者・工事施工者との契約等、諸契約がおこなわれる大切な時期を迎えようとしています。それに伴う会則の変更が必要となり、財務部と連携をとりながら着手していきたいと思います。

また、早期に支部総会において本部理事の選出を御願ひしたいので、各支部規則の見直しをしたいと思っており、各支部役員の皆様には、御協力の程、宜しく御願ひいたします。

財務部長 楠 木 俊 夫

本年度の財務部長に就任致しました。

会館建設という大事業に向けて、分かり易い特別会計の仕組みを作り、円滑な事業運営の一助が出来ればと、増満大先輩を後見役に頂き、一生懸命努力致します。

宜しくお願い致します。

業務部長 米 原 茂 樹

本部理事として2度目の選任を受けましたが、1度目は10年以上も前のことで業務部なる重要（大変）な部所と部長など勤まるか不安なところが現在の心境です。

今までの企画・業務と引き継がれて来た中で永遠のテーマとして報酬の均一化の問題があります。一般の社会から常識的に受け入れられるものにしなければなりません。三好副会長のもと部員と共に戮力ながら業務を遂行して行きたいと思っております。会員の皆様のご協力をお願い致します。

広報部長 高 杉 千 河 生

本部理事として三期目、広報部長の指名を再度受けました。

この度は、女性を含むメンバーで花も実もある広報活動を進めて行きたいと思っております。

尚、会員の皆様のご協力なくしては広報活動の発展はありませんので、これからも宜しくお願ひ致します。

1 回目理事会報告

平成9年度理事会が支部長会と合同で、平成9年6月25日午後1時30分より、山口湯田温泉「KKR山口あさくら」に於いて乗川会長以下、副会長、監事、理事、支部長、綱紀委員の出席のもとに開催された。

会長挨拶の後、全員の自己紹介、議事録作成者、議事録署名人の指名がなされ議事に入った。①名誉会長に新本清人先生、相談役に高田吉雄先生、竹内重信先生を委嘱し、②部会の編成を連合会組織に合わせ次の通り決定した。

総務部

担当副会長 瀬口副会長
 理事 渡辺(部長)、八木

財務部

担当副会長 瀬口副会長
 理事 楠木(部長)、増満

業務部

担当副会長 三好副会長
 理事 米原(部長)、山根
 大森、若林

広報部

担当副会長 小嶋副会長
 理事 高杉(部長)、松田
 上村、坂本

支部長会

議長 西本支部長
 副議長 青木支部長

綱紀委員会

委員長 井尻富士夫
 副委員長 野村 幸人

理事会終了後震度4の地震があり、会場は一時騒然とした。自宅の様子を心配して電話する会員もあった程ひどく揺れたが何事もなく帰路に着くことが出来た。被害を受けられた県内北部の方には御見舞申し上げます。



建設委員会報告

建設委員会 建設部門担当 小嶋 慎一郎

去る7月1日会館において第1回の標記委員会が開催されました。

役員改選後初の委員会であったので、各部門の責任者、担当者を決め（別掲のとおり）その後建設委員会顧問の佐田先生、笹戸建築設計事務所担当者にも出席をいただき基本設計について、いわゆる【使い勝手の良い会館】にすることを基本に意見の交換を行いました。

概要は、つぎのとおりです。

- 1 中廊下を南側壁面まで通して明かりを取りたい
明かりを取るのなら現在の構成で良い。床面積が減少するので考えないこととする。
- 2 3階の会議室を賃貸できるよう考えておく必要は無いか。
第3者に賃貸する場合別に建築規制があり、管理上のことを考えると賃貸しない方向で考えた方が良い。
- 3 建物本体を小さくすることで駐車スペースを多く取れないか。
建設準備委員会ですでに決定され総会でも承認されたことであり、年間に開催される会議の内容、回数を考えたら16台あれば充分である。
- 4 喫煙スペース、事務室外カウンター、自販機設置、便所、更衣室の設置等どうか配置を検討することで合意

以上決議がなされ、設計事務所に対して椅子、テーブル等の配置を含めた変更後の詳細図の作成を依頼し、その図面が完成次第、次回の委員会を開催することとなりました。

会員全員の会館です。可能な限り要望もお聞きしますのでご意見をお寄せ下さい。

会館建設委員会役割分担表

委員長	副委員長	内 容	担 当	
乗 川 良 介	財 務 部 門	設計事務所との契約	会長、渡辺	
	瀬 口 潤 二	契 約	JRとの協定	小嶋
			JRとの契約	会長、小嶋
			協会との契約	楠木
		特 別 会 計	会館売却の件	会長、楠木
			助成金	渡辺、河村
			寄付金の募集 会債の募集	楠木
			税務確認	木下
			融資申し込み事務	事務局
	建 設 部 門	備 品	会議机 ロッカー 電話、コンピュータ OHP等	浦井、田中
小 嶋 慎 一 郎	建 物 本 体	会議室 配線 間仕切り 使い勝手 炊事場 展示室	藤津、鶴巻、 池本、大田	
	外 部 工 事	広告塔 植栽 GPS	高杉、米原	
建 設 部 門	三 好 一 敏	式 典	報道との交渉 来賓関係 記念イベント	水津、相談役、 顧問

建 設 委 員 員	委 員 長	乗川良介
	副 委 員 長	小嶋慎一郎 瀬口潤二 三好一敏
	本 部 委 員	渡辺剛通 楠木俊夫 米原茂樹 高杉千河生 木下 勝
	支 部 委 員	浦井義明 田中拓朗 河村 清 藤津 浩 池本賢治 鶴巻栄一 大田雄二郎
	協 会 理 事 長	水津久太郎
	顧 問	三好敏夫 新本清人
	相 談 役	竹内重信 高田吉雄
	外 部 顧 問	佐田光也





（左）事務課長 佐藤 隆夫氏（右）事務課長 佐藤 隆夫氏

（左）事務課長 佐藤 隆夫氏（右）事務課長 佐藤 隆夫氏

ロゴマーク図案

宇部支部 会員 樋谷 亮
家族会員の妻 樋谷 文子



A 国民の信頼に応える調査士
B 国民の手で支えられている調査士

宇部支部 会員 樋谷 亮
家族会員の長女 樋谷 洋子



A 調査士が地球を支えている
B 地仗に浮かぶ調査士

防府支部 松田 光明



コンクリート杭^ことしを表わしている。

宇部支部 会員 樋谷 亮



地球に羽撃く調査士

藤井 昇 二のファミリー

藤井 美保子



→調査士のC!
コレクトのC!
→「はカッタ君」
だびょん

(「測る」と桃色ペリカン「カッタ君」の掛け詞)

宇部支部 山田 勇



1

中国5県 各県の色
赤 太陽 情熱



2

中国5県の象徴 赤色 情熱 太陽
土と土の表現 緑 自然
三角垂のイメージ 正確 公平



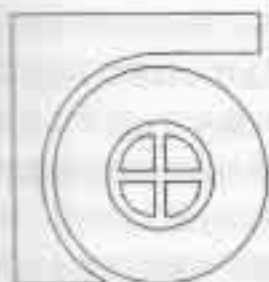
3

広島土地家屋調査士会

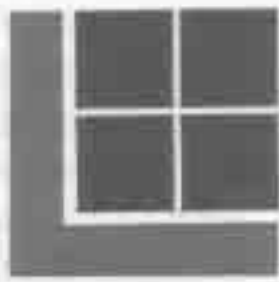
呉支部 藤 和博



1



2



3



4

投稿

毛利秀包の生涯

下関支部 前田博司

毛利元就ブームである。テレビで美男の俳優が主人公を演じると、たちまちにしてその登場人物のファンが急増する。毛利氏といえば、いわゆる「三矢の訓え」で名高い。そのせいか元就の子は三人しかいないと思われがちだが、実際は九男二女（もう二三女いたともいう）の子沢山であった。そのうち正妻の子は三男一女であった。正妻が没した後、側室からほかの子供たちが生まれたのである。

元就が61歳のときに書かれた教訓状が「三矢の訓え」のルーツと見られているが、その14ヶ条の一つに、「一、ただいま虫けらのような子供たちがいるが、彼らにも情けをかけてやり、どこか辺境などにでも置いてやってほしい。またひょうろく者であって、力のない者は、治政の妨げになるので、どう処置してもかまわない」という文がある。非情と言えは非情だが、謀将元就らしい。

ところで、九男で末っ子の秀包（ひでかね）は、元就71歳のときの子である。テレビドラマの原作者永井路子は、『元就、そして女たち』に次のように記している。

「な、な、なんだって！」元就は飛び上るほど驚いた。

「それはまことか」「はい、まちがいなく」「ほ、ほ、ほんとに俺の子か」

「ま、私が不倫を働いたとでもおっしゃるのですか」いくつになっても子供っぽいところのある乃美の方は、ふっとふくれてみせて、元就を慌てさせたことであろう。

「いや、あ、わ、う……。そういうわけではないが」元就は腕を組む。

「七十のこの俺が子を作るとは、こりゃ、どうも……」

懐妊を告げられた時の元就の驚きを作家は見事に表現している。元就の言う「虫けらのような子供たち」にさらに一人が加わったことになる。元就の「虫けら」たちは、それぞれにひとかどの活躍をしているのだが、歴史にあまり取り上げられることはない。

永禄10年（1567）に生まれた末子は、才菊丸・市正・藤四郎元総などと次々に名を改め、13歳で元服したのを機に小早川隆景（元就の3男）の養子に迎えられた。隆景に子が無かったためでもあるが、この兄とは35歳も年がかけはなれていた。

天正10年（1582）、「本能寺の変」で織田信長が滅びた後、備中の高松城を水攻めしながら毛利勢と戦っていた豊臣秀吉は、信長の死を伏せて急速毛利氏と講和を結び「中国大返し」を行なった。明智光秀を倒して畿内の実権を掌握した秀吉は、翌年毛利氏に協力を求め、人質を要求した。その一人で、隆景方の人質になったのが元総であった。

秀吉は元総一人で毛利氏の人質は十分であるとして、ほかの者は帰している。

元総は秀吉に可愛がられて手元におかれ、秀吉から「秀」字を与えられ秀包を名乗った。天正13年(1585)四国における長曾我部氏との合戦には隆景の先手となって戦い、戦後その活躍ぶりを認められて、伊豫宇和郡に3万5千石を与えられた。今の大洲(当時は大津)周辺である。翌年には豊前に島津勢と戦い、その功によって、15年には筑後3郡7万5千石を領知し、久留米に在城した。当時下関には、九州攻めの軍勢が大挙して海峡を越えるべく待機駐留しており、秀包もその一員であった。

このころ、キリスト教の教会堂が下関に建てられた。黒田長政の勧めによって、秀包はこの教会堂で洗礼を授かったものと思われ、シモンの洗礼名を得た。豊後の大名大友宗麟の娘マセンシアも、同じころ人質として下関に滞在しており、のちに秀吉はこの二人を結婚させた。結婚前に彼らが当地で知り合えたかどうかは定かではない。

文禄の役には、隆景の先陣として1500人を率いて朝鮮国に出兵し、碧蹄館の戦いで明国の大軍を破るなどの戦功を重ね、所領も加増されて13万石に及んだ。

秀吉が、その正妻の甥に当る秀秋を毛利本家の後嗣に立てようと画策していることを知った隆景は、秀秋を小早川家の継嗣とすることを秀吉に求め、そのため養子の秀包は家督を立てた。秀秋は「胡乱(うろん)の公子」とうわさされていた。そのため、このためは、隆景が小早川家を犠牲として、毛利本家を守ったものとされている。

秀吉が慶長3年(1598)に没し、5年に東西両軍が対決すると、秀包は大坂城に入り、東軍に転じた京極高次を近江大津城に攻めて降し、のち伏見城の焼跡を守った。

関ヶ原の戦は、小早川秀秋の離反によって西軍が大敗し、西軍の統帥となった毛利輝元は、責を問われて、中国八ヶ国から防長二国の領知に押し籠められた。その歴史を防長人は誰もが知っている。このとき秀包も筑後の所領を没収された。

秀包は剃髪して入道道叱と号し、大坂から船に乗って下る途中に「風氣」を煩い、以後下関南部村の宮本二郎大夫宅に滞在していたが、翌年3月23日に没した。35歳であった。所領を没収されては、久留米に帰ることも叶わなかったことだろう。

生母乃美の大方も、毛利氏の国替えに伴って、孫の秀元に誘われ下関の秋根村に移ったが、その年の9月14日、秋根の居館で没した。母子が当地で再会したかは明らかでない。秀包の遺骸は滝部(現豊北町)に葬られた。久留米を引きあげた妻マセンシアは引籠の君と呼ばれて阿川に住んだが、慶安元年(1648)に同地で没し、豊田村の月山に葬られた。秀包の子孫は初め阿川(現豊北町)に在館し、のち吉敷に所領替えとなり、毛利一門の吉敷毛利家(1万石余)を称した。こんな毛利一族も居たのである。

クラブだより

中国ブロック親睦釣り大会貧戦記

釣りクラブ 小嶋 慎一郎

去る6月6日～6月7日、大山隠岐国立公園で名立たる隠岐島で開催された標記釣り大会は、中国ブロック各单位会より屈指の自称釣り名人が島後の西郷、布施近辺の磯釣り場、船釣りポイントに真鯛の大物を夢見て結集し開催されました。麦わら鯛のシーズンに入り、下げの大潮、天気は快晴、風雨もなく釣り条件からすればどんな大物、どれだけの漁獲があっても不思議ではない好条件でした。

残念ながら、この所、我が調査士会釣りクラブは、親睦を第一義としているからか、それとも理想が高すぎるのか、標題のとおり、どうも釣果が芳しくなく反省中です。

山口会から参加した6名は磯釣組、舟釣経に分散し、それぞれが大物賞を勝ち取るべく大会に臨みました。

私は、磯泊で真鯛を狙いましたが、同磯のF氏に34cmを夕まずめに1匹その他グレ、アジが3人合わせて数匹程度、そのうち日が暮れて、『必ず俺の竿に大物が』という期待も時間の経過とともに薄れてしまい、潮もだんだんと動かなくなり、磯一帯が夜露にぬれた9時ころからは、酒のおかげで体も多少温かくなった私は、明日の懇親会に備えて澄み切った空に冴え渡る満天の星を眺めながら、いつの間にやら寝袋の中で寝入ってしまいました。

次の朝、聞いたところによると、同磯のA氏は、例の調子でしぶとく大物を狙った様ですが貧果に終わったとのことであります。

ともあれ、中国ブロック内調査士21名は、仕事を忘れて魚釣りに動しみ、懇親会、表彰式に、隠岐島一の美人を交えて、釣り談義に花を咲かせ、大いに来年の健闘を誓い合いました。

今回幹事として、お世話いただいた米子の岩本さん、釣舟から2次会、そして、帰りの荷物の運搬まで段取りをさせていただいた西郷の渡辺さん、ご意見番で、大会を仕切った松江の菅井さん、金一封を出すはめになった下関の高田さんを始め地元会の会長様、中国ブロックの乗川会長、お陰さまで、大変楽しい思いをさせていただきました。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

なお、帰りの車の中では、防府の両H氏が準備されたビデオを生つばを呑みながら鑑賞し、知らぬ間に山口へ帰着していたことも併せて報告しておきます。

次回は山口会が幹事をお世話させていただく予定としております。九州の五島、対馬辺りで開催できたら汚名も挽回できると目下検討中です。

釣りクラブでは会員を募集しています。随時お申し込み下さい。





事務局だより

会員異動状況

1. 会員入脱会状況

支部	氏名	入脱会年月日	事務所	TEL
岩国	部屋 武雄	H9.4.13死亡		
	鶴田 誠	H9.6.6脱会		
下関	八田 一代	H9.6.29死亡		

2. 事務所住所変更

支部	氏名	年月日	変更事項	TEL
徳山	林 弘	H8.11.15	熊毛郡熊毛町大字呼坂 1181の13 (住所)	0833 91-5584
"	"	H9.4.1	熊毛郡熊毛町大字原116の1 (事務所)	0833 91-1784
山口	本間 正幸	H9.3.27	山口市大字嘉川3514の5 (住所)	0839 89-2326
"	"	"	" (事務所)	0839 89-2326

会 務 報 告

9.5.8日(木)	正副会長会議	会	館
9日(金)	防府支部総会	防	府
16日(金)	研究室会議	会	館
20日(火)	萩支部総会	萩	市
26日(月)	会館建設用地協議(現地)	山	口
27日(火)	定時総会打合せ会	小	郡
28日(水)	第50回定時総会		"
31日(土)	下関支部総会	下	関
6.2日(月)	会館建設支障電柱調査(現地)	山	口
6日(金)	宇部支部総会	宇	部
12日(木)	徳山支部総会	徳	山
13日(金)	新会館電線・電話線引込み位置協議	山	口
15日(日)	中プロ会長会議	東	京
16日(月)	} 日調連総会		"
17日(火)			"
21日(土)	山口支部総会	会	館
25日(水)	本部役員・支部長合同会議	山	口
7月1日(火)	第2回建設委員会	会	館
4日(金)	正副会長会議		"
10日(木)	広報部会		"



このメンバーで頑張ります、よろしく

発 行 山口県土地家屋調査士会
山口市駅通り2丁目8番15号
電 話 (0830) 22-5975
F A X (0830) 25-8552
振 替 01590-5-11685
発行者 山口県土地家屋調査士会
会 長 栗川 良介
広報担当副会長 小嶋慎一郎
広 報 部 長 高杉千河生
部 長 松田 邦利
- 坂本 敬子
- 上村 栄
印刷所 西京コーポレーション
山口市中央5丁目15番11号
電 話 (0830) 24-3130